

## 第1回 広域機関システムの開発に関する第三者評価委員会 議事録

日時：平成28年10月25日（火）15：00～16：30

場所：電力広域的運営推進機関 会議室B

出席者：

- 中村 英夫 委員長（日本大学 特任教授）
- 大谷 禎男 委員（元東京高等裁判所 部総括判事）
- 喜入 博 委員（KPMG コンサルティング株式会社 顧問）

配布資料：

- ・ 議事次第
- ・ （資料1）広域機関システムの開発に関する第三者評価委員会の設置について
- ・ （資料2）委員会の進め方
- ・ （資料3）開発経緯と評価対象・フレーム

議題1：開催のご挨拶と委員紹介

- ・ 中村委員長より挨拶
- ・ 各委員より自己紹介と挨拶

議題2：委員会の設置について

- ・ 事務局から資料1により説明を行った。
- ・ 原案のとおり承認された。
- ・ 質疑は特に無し。

議題3：委員会の進め方について

- ・ 事務局から資料2により説明を行った。
- ・ 原案のとおり承認された。
- ・ 質疑は特に無し。

議案4：開発経緯と評価対象・フレーム

- ・ 事務局から資料3（非公表）により説明を行った。

〔主な議論〕

- ・ 事務局から提案のあった評価フレームワークであるPMBOK（ピンボック）の内容については、開発会社も取り入れて実施していると思う。これだけのシステムを開発するために、PMBOK又は準じた自社の手法を取り入れているはずだが、足りていたのか、時間がなくて足りなかったら足りなくて良かったのか、今まで開発会社が実施してきた事に合理性があったかを検証すべきである。

- ・本システムの開発期間は、非常に短期間であったと認識している。提案依頼書や提案書を拝見したが、計画が明確に出来ていたか、あるいは十分な時間があったのかが気になる。  
そのあたりが、その後のマスタースケジュールの策定に影響があったと思われるので検証が必要であると考え。
- ・短期間であったことは認識しているが、短いなら短いなりに工夫して実施するものと考え。工夫があったのか、その工夫ができなかったのか、実態を確認していきたい。  
→（事務局）開発会社もPM（プロジェクトマネージャー）以下のヒアリングを予定している。
- ・本システムの入札は総合評価落札方式で開発会社を選定したため、価格と技術を評価しているが、どのように評価したかも重要ポイントであると考えている。
- ・本委員会でまとめる範囲はどこまでなのか確認させて頂きたい。  
→（事務局）本委員会で範囲を決めていきたいが、当初計画に対する実績（本年4月の運用開始まで）は必須と考えている。  
本年4月以降の開発についても必要であれば評価対象としたい。
- ・本委員会の目的は、単に遅延している原因の究明だけではなく、分析・再発防止といった未来志向であると考えている。現時点までフォーカスをあてて再発防止策を提言すべき。
- ・単に、過去を振り返って評価するだけでなく、「今後どうやっていくべきか」に資するような委員会になった方がよい。  
→（事務局）本年4月以降の開発も含めて評価対象としたい。
- ・契約当時に開発会社が想定していた規模感と、実際とのギャップを感じていると思うので、しっかりヒアリングしてもらいたい。
- ・当初想定より大量に人材を投入しているが、当初から社内ですべて対応できるだけのリソースを確保していたのか。
- ・当初の見積りがどうであったかヒアリングして頂きたい。  
当初のボリュームとかなり乖離があると認識しているが、見積りが甘かったのか、要求仕様が膨らみ過ぎたのかなどを明らかにして頂きたい。  
→（事務局）ヒアリング計画に織り込む。
- ・評価の対象範囲はどう考えるのか。  
本システム化の大きな特徴は、業務を決めながらシステムを作り、更に短納期であること。  
業務要件、組織、責任者など分かる範囲で対象とした方がよいと考える。
- ・本システムの開発は、業務手順の設計と平行して実施された非常に大変な作業であったと認識しているが、開発会社も当初から難易度の高い案件であると認識し、それなりの覚悟を持って臨んでいたものと考えられる。  
→（事務局）難易度の高い案件作業であることは、発注者も開発会社も認識していた。開発会社側の提案書に、未決定事項のマネジメントに関する記載もある。そういった認識が当初からあった事実について出来るだけ幅広くヒアリングを実施し確認する。

- ・ 現段階での開発会社の自己総括は実施されているか。社内分析は当然実施していると思われるがどうか。請負人の義務でもある。
  - (事務局) 開発会社に確認する。
  
- ・ 評価フレームはPMBOKをベースにするとの提案に、異議はないが、発注者・開発会社ともPMBOKを意識していたか気になる。
  - (事務局) ヒアリングで明らかにしていく予定だが、提案依頼書、提案書とも明記されている。
- ・ PMBOKの項目を一つ一つ確認するわけでは無い。PMBOKを参考にしながら、その精神や重要なポイントが実務に生かされていたかを確認すべきである。
- ・ PMBOKをベースとして、本システム開発に合わせてカスタマイズし、特に重要な点やそうでもない点などを分類・整理することで良いか。
  - (事務局) 次回に向けて整理していく。
  
- ・ これから本格的なヒアリングや調査が始まるが、どの辺にスポットを当てていくか概ね確認できた。
  - (事務局) 事務局としても、方向性がかなりイメージできたので、本日頂いた意見を整理し、次回委員会で議論頂きたい。  
本来は、委員の皆様にご意見を頂いて議論すべきであるが、多少事務局も発言して情報提供の方が最終的な評価フレームを決める時に役立つと思い議事を進めさせて頂いた。  
議事運営含め、適宜意見を頂きたい。
  
- ・ 次回予定11月16日(水) 16:00～を確認して、第1回委員会を終了した。

以上